

特集：カンキツグリーニング病

# カンキツグリーニング病と媒介昆虫ミカンキジラミの分布と研究の現状

果樹研究所カンキツグリーニング病研究チーム 青 原 亘

## はじめに

カンキツグリーニング病（以下 HLB と略記）は亜熱帯・熱帯アジア地域や南アフリカのカンキツに発生する重要病害である。HLB 罹病樹には、まず一部の枝に病徴が現れ、亜鉛欠乏症のように葉脈や隣接組織が黄化し、のちに葉全体が黄化する。やがて病徴は他の枝にも発現し、衰弱して枯死に至る。本病害は yellow blanch, citrus greening (南アフリカ), 黄龍病 (huanglongbing, 中国), 立枯病 (likubin, 台湾), leaf mottling (フィリピン), citrus dieback (インド) など様々な名称で呼ばれていた。1970 年代にこれらが形態的に同じ病原体によることが確認されてから, citrus greening disease が一般的に使われるようになった。しかし, 第 13 回 International Organization of Citrus Virologist (IOCV, 1995) において, huanglongbing (HLB) を正式英名として採用することが決定され, 徐々にこの名称が定着しつつある。

病原体は師管寄生難培養性細菌 *Candidatus Liberibacter spp.* で, 南アフリカに発生するものはアフリカ型 *Ca. L. africanus*, 我が国を含むアジアとアメリカ大陸のものはアジア型 *Ca. L. asiaticus* に分類されている。

本病は接ぎ木によるほか, アジア型 HLB 病原体はミカンキジラミ *Diaphorina citri* によって伝搬される。このキジラミは我が国では奄美諸島以南に分布しているが, HLB の発生は認められていなかった。ところが, 1988 年に西表島で罹病樹が確認されて以来, 鹿児島県南部の島嶼部にまで分布を拡大している。また, 2004 年にはブラジルで罹病樹が発見され, 被害が拡大している。さらにフロリダでは 1998 年にミカンキジラミが侵入し, 2005 年に HLB の発生が確認された。本稿では, このように世界的に分布拡大傾向にある HLB とミカンキジラミの発生状況および我が国の HLB 研究の概要に

ついて紹介する。

## I グリーニング病とミカンキジラミの分布

### 1 海外における分布

ミカンキジラミのアジア地域での分布は, 南アジア, 東南アジアを中心とし, 西はアフガニスタンとパキスタン, 東は中国東南沿岸部, 西南諸島に及ぶ。アジア以外ではブラジル, アルゼンチン, ウルグアイ, マダガスカルに位置するレユニオン島とモーリシャス島に生息している。このキジラミと HLB の分布に世界的な関心が集まったのは, 1998 年 6 月にフロリダ州のパームビーチなど数箇所で見つめられたためである。以後同州のカンキツ地帯に分布が広がり, 2001 年にはテキサス州に飛び火した。中米では 1998 年 1 月にはカリブ海のグアドループ島で発生が確認されており, 以降バハマ諸島のアバコ島とグランド・バハマ島, ベネズエラ, グランド・ケイマン島, ドミニカ, プエルトリコ, メキシ

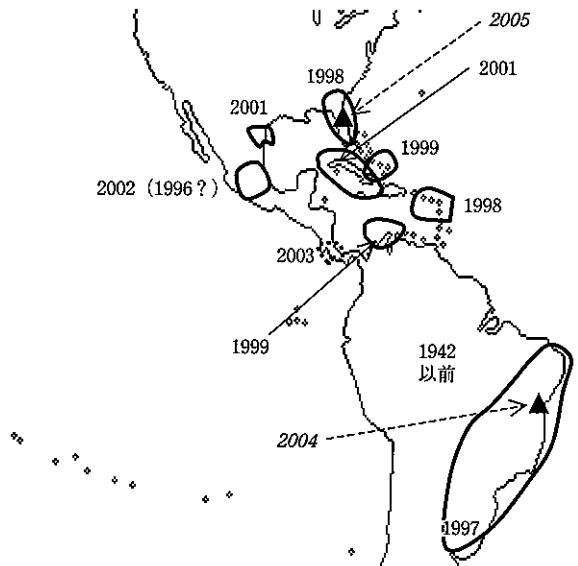


図-1 アメリカ大陸におけるミカンキジラミとカンキツグリーニング病の分布拡大  
 実線枠：ミカンキジラミの分布域, ▲：グリーニング病の発生地。

Present Status of Distribution and Research Works of Huanglongbing (Citrus Greening Disease) and its Insect Vector, *Diaphorina citri*. By Wataru ASHIHARA

(キーワード：ミカンキジラミ, カンキツ, 分布, グリーニング病)